



# がっこう 学校だより

がっこう  
2月号



**Challenge  
Dream  
Interaction**

れいわ ねん がっ にち  
令和5年1月31日  
よこはま しりつかみい だしょうがっこう  
横浜市立上飯田 小学校

<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/kamiida/>

## アンコンシャス・バイアス

こうちょう よこやまよしあき  
校長 横山 美明

がつはつ か ねんせい じんけんきょういく いっかん めいじだいがく やまわきけいぞうせんせい やまわき がくせい  
1月20日に6年生の人権教育の一環として、明治大学の山脇啓造先生・山脇ゼミの学生とオンラインでアンコンシャス・バイアスについての学習を行いました。

アンコンシャス・バイアスとは、自分自身が気付いていない「ものの見方やとらえ方のゆがみや偏り」のことを言います。自分では、その見方にゆがみや偏りがあることに気付いていないためアンコンシャス・バイアス「無意識の思い込み」と呼ばれています。

今回は、外国人に対するアンコンシャス・バイアスを例として挙げ学習しました。学習を終えての子どもの感想では、「『アンコン』について知らなかったことが分かった。」という感想が最も多く、それに次いで「『アンコン』は悪いことだと思っていたけれど、大学生の人たちに『アンコンは悪いことではない』ということをおしえてもらってよかった。」という感想も多く見られました。アンコンシャス・バイアスは「無意識」の思い込みなので、そうした見方をもってしまったこと自体は悪くなく、自分自身がそのことに気づき、それにどう対応していくかが大切になります。子どもと大学生のやり取りを見ていて、私自身も考えさせられることの多い学習でした。アンコンシャス・バイアスについて学ばなければならないのは、子どもよりもむしろ人生経験の長い私達大人の方だと思います。

子どもの感想の中でもすばらしかったのは、「これからは相手にも思いやりの気持ちをもって接していきたい」「私達の無意識な差別により人を傷つけていることが分かったので、見た目だけで判断しないようにしていきたい」「日常生活の中で意識することでアンコンが減り、より多くの人々が幸せになれると思う」「誰もが傷つけない社会を築いていきたい」といった今回例として出された外国人に対するアンコンシャス・バイアスだけでなく、すべての人に対する接し方や考え方、これからの自分の生き方にまで目を向けており、まさに子ども達の人権感覚が高められた学習であったと感じました。他にも男女の性別に関するアンコンシャス・バイアスについて感想を述べている子もいました。

こうした学習は、一方的に教わるだけの学習では難しく、今回のようにオンラインであったとしても、人と人が対話しながら、自分の想いを伝え合うことが大切で、それがあったからこそその成果だと感じています。今回の学習で高められた人権感覚もそのままにしては、時間が経つとまた鈍ってしまいます。大切なことは、子どもの感想にもあるように「日常生活の中で常に意識して生活すること」です。私達大人も人権感覚を常に磨き続けていくことが大切だと感じています。ご家庭でもいろいろなところで潜んでいるアンコンシャス・バイアスについて話題にしてみてください。

学習会当日の様子や大学生の感想については、山脇ゼミのホームページに出ていますので、興味がありましたら、ぜひご覧になってください。

めいじだいがくこくさいにほんがくぶやまわき  
明治大学国際日本学部山脇ゼミホームページ

<https://www.meiji.ac.jp/nippon/info/mkmht00000028suy.htm>

